

【スペイン語】

スペイン語を学ぶということ

今回この原稿の執筆依頼を受けるにあたり、もう大昔の話になるのだが、自分自身がなぜ数ある外国語からスペイン語を専攻しようと思いついたのか、そのきっかけになる出来事は何だったか、遠い記憶を思い返してみた。

私が高校一年だった時、父親が単身赴任していた中米のホンジュラスの首都テグシガルパに、私たち家族は休暇を利用して遊びに行くことになった。母も私も二人の弟も、スペイン語は一切話せなかった。英語ができれば何とかなるだろうという気持ちが強かった。そしてまず入国審査で問題が発生した。母が下手だが何とか通じるであろう英語で入国の理由を説明したが、全く通じなかったのだ。“Spanish, please!”と言われ、慌てて単語集を出して「観光」を意味する“Turismo (トゥリスモ)”という単語を言ってみたら、今度は「テグシガルパに日本人が女性と子供だけで観光に来るなんてあり得ない・・・」とかえって怪しまれてしまった（後から父に聞いた）。結局空港に迎えに来ていた父を呼びに行き、スペイン語で説明してもらい、何とか無事入国できた。

この滞在中にもう一つ出来事があった。父の不在時にお手伝いさんが“¿Van a comer en casa? (バン ア コメール エン カサ?)「今日は家で食事しますか?」と聞いてきたのだ。我々は何が何だか分からない。お手伝いさんは食事の準備をして良いのか分からないと困るのだろう、執拗に“¿Comer?”と聞いてくる。困った母は「コメール? あっ、米ね、ご飯ね。ああ今日はレストランに行きます。米、NO です。」——なんと!!、奇跡的にコミュニケーションが成立したのだ(念のため、スペイン語の comer「食べる」と日本語の「米」は全く関係がない)。しかしこんな奇跡はそうそう何度も起こるものではない。

私はこれらの出来事に少なからずショックを受けた。中米の国で、しかも田舎ではなく首都で、英語がこんなに通じないなんて…。実は日本は世界の中でも比較的英語の通じる国なんじゃないかとさえ思った。あの時少しでもスペイン語ができていたら、それこそ本当に簡単な表現や単語でも良いから知っていたら、もっと色々問題なく楽しく過ごせただろうなと思うと残念だった。

私がスペイン語を専攻したきっかけはもちろんこのエピソードだけではない。英語の次に勉強するのなら話者の人口の多い言語が良いなと思ったのも大きな理由だった。でもこの時のカルチャーショックと、この時耳にしたスペイン語の心地よい音、そしてその意味を知りたいという気持ちが最初のきっかけとなったのは間違いない。

■スペイン語とはどういう言語なのか

ではスペイン語とはそもそものどのような言語なのか? 「スペイン語はラテン語から来た」という一般的な認識は、実は厳密には正しくはない。ラテン語は古代ローマ帝国の公用語であったが、古代ローマ帝国といえば、西はイベリア半島から東は小アジアまで、南は北アフ

リカ沿岸から北はブリテン島までと広大な範囲を覆う帝国であったのだから、その中で地域による方言差が生まれるのは必然であった。ローマ時代の一般民衆が日常的に話していたのは、各地方ごとに異なる簡略化された口語ラテン語、つまり俗ラテン語であり、ローマの属州ヒスパニアで使われていた「俗ラテン語が現代のスペイン語の生みの親である」ということになる。このように、広大なローマ帝国の一方言を元にして生まれたスペイン語は、起源・成立を同じくするイタリア語やポルトガル語とは発音や語法が多少異なる程度で、方言程度の違いしかない（実際スペイン語しか知らないスペイン人がイタリアやポルトガルを旅行しても困る事はないらしい）。また、フランス語やルーマニア語、カタルーニャ語も同系統の言語であり、これらはいわば兄弟関係にあると言える（これらを総称して「ロマンス諸語」という）。

さて次に、このように広大なローマ帝国の一方言を元として出来たスペイン語がさらに世界に大きく広まるきっかけになったのが、1492年のコロンブスによる「アメリカ大陸到達」から始まる15世紀から17世紀にかけての「大航海時代」、つまりスペイン人によるアメリカ大陸の侵略である。この結果現代の中南米のほとんどの国々がスペイン語を公用語とする事になったのである。私も含め「話者の人口が多いから」という理由でスペイン語を選択する学生も多いかと思うが、その背景には虐殺・侵略・植民地化という歴史的事実があったことも忘れてはいけないだろう。

■スペイン語を学ぶにあたって

スペイン語はその初歩の段階において、日本人にとって学びやすい言語であると言われている。その要因としては、母音が日本語と同様に5つ（a,e,i,o,u）しかないというスペイン語の発音体系があげられる。子音の中にはいくつか日本語にない音、日本人にとって発音しにくい音も存在するが、母音が5つという事で大体の音はローマ字読みで成立するため、最初の発音・アクセントを学ぶ際にあまり苦勞せずに習得する事ができる。実際私の授業でも、最初の一回、または一回半の授業で、アルファベット・発音・アクセントの説明は終了し、その段階で（きちんと授業を聞いていた）学生は、意味は分からなくともスペイン語の単語、文章を正確に音読する事ができるようになっているはずである。

ただ、最初の段階で油断してしまうと先々挫折してしまう危険性があるので注意してもらいたい。実際この後の文法に入ると、それは日本語とも英語とも異なり、名詞は単数・複数だけでなく男性・女性という違いが存在し、動詞は主語の人称に合わせて6通りに活用しなくてはならず、さらに不規則形は一つ一つ覚えて行かなくてはならない。根気よく学ぶ姿勢が不可欠である。

単語も英語から類推できるものもあるが、（時々ロマンス系諸語の既修者の学生もいて、そういう学生は比較的楽にこなしているが）英語とは全く異なる単語も多いため、その都度自分で辞書を引いて意味を確認してもらいたい。「辞書を引いた回数だけ語学力は伸びる」とは、私自身が学生時代に教師に言われた言葉であるが、その通りであると思う。

ただ、実際にスペイン語で表現したり聞き取って意味を理解する事は、学んでいく過程で、新しい文法事項を学ぶたびにその段階なりの実践・会話練習はする事ができるので、できるだけ積極的に授業に参加し、スペイン語を聞き、話す喜びや楽しみを初歩の段階から感じてもらいたい。活用表の暗記や文法事項の理解だけに終始しているといつ忘れがちになってしまうのだが、スペイン語とは言葉である。いかなる時も、今私達が勉強しているのはコミュニケーションツールとしての言葉であり、この文法とこの単語を覚えたらこれだけのことが言える、こういう事を相手に伝えられる、という実感は忘れないで学んでほしいと思う。

■スペイン語で何を語るか？

語学とはコミュニケーションの道具である。それを使って何を語るか？どんな情報を手に入れるか？いかに異文化間の相互理解を可能にするかが語学学習の本来の目的である。そのため、スペイン語を学習するにあたって、各々にスペイン語圏に関する興味を持ってほしい。分野は何でも構わない（サッカーでも、食べ物でも、芸術・政治経済・歴史でも）。自分の興味のある事、好きな事をもっと知りたい、理解したいという気持ちを、勉強のモチベーションとしてできるだけ楽しく学習を進めてもらいたい。